

スポーツクライミング世界制覇に向けてー理学（運動）療法の飽くなき追及ー



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 教授

加藤 勝行 kato katuyuki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：運動療法（ファシリテーションテクニック）・敏捷性・反応定位（軌道）・持続的時間効果

研究の概要

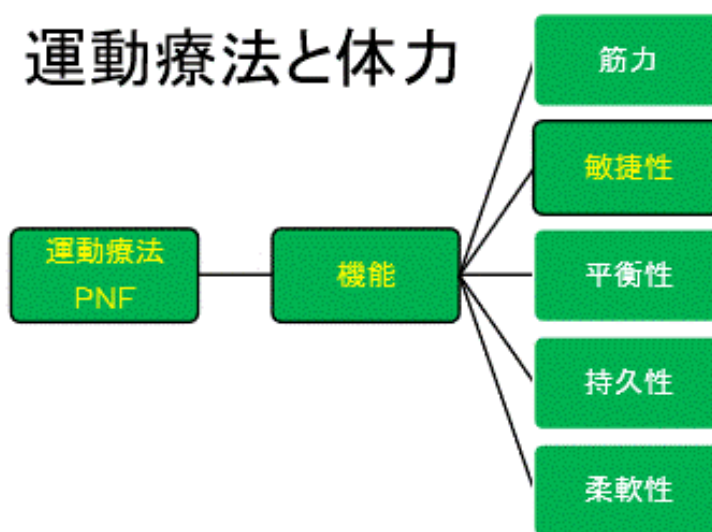
運動技能評価については、筋電図、反応時間、エネルギー、運動軌跡、視覚的運動分析等の指標により多角的評価が可能となります。特に、敏捷性は構成要因として筋の収縮速度、筋を支配する運動ニューロンのインパルス発射様式、酸素消費能力、反応定位（軌道）などの組み合わせにより、種々の敏捷な動作様式が成り立つものであるとされています。関節運動から敏捷性を体力の要素の一因子としてとらえて、刺激に対して反応動作が起こるまでの反応時間の短縮が持続するならば、すなわち、動作反応の準備態勢を整えていることを示し、素早い動作能力としての敏捷性という機能的向上がもたらされると考えました。

理学療法士として学べる運動療法の機能に特化した効果を目指していることから、動作画像による反応軌道の解析、筋力、敏捷性の向上、ROMといった筋の柔軟性の拡大を目的とした運動学習に重きを置き、その効果（結果）が導き出すことは実践的質の向上教育につながるものと考えています。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

運動療法と体力



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

長年の臨床経験から、Facilitation 技術の提供とその運動学習がアスリートには最も重視すべきとの知見にたどり着きました。現在は JMSCA 医科学委員に所属する傍ら、スポーツクライミング選手を主に 25 年診ています。その間、東京 2020 以外でもリードとボルダー競技において世界年間チャンピオン達成に男 2 名女 1 名の育成に携わって来ました。特にボルダーでは 2 年連続を 2 回と 4 度立たせることに貢献させて頂きました。現在 2028 年ロサンゼルスオリンピックに向けた若手選手育成にも携わっていますが、さらに全国に居る有望選手にも培ってきた知識と技術を提供したいと考えています。相反神経強化を用いたテクニックの有用性にご理解を頂けるなら、一緒に日本選手の体力・技能向上にご支援いただけますと幸甚でございます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「A study on the lasting effects of PNF stretching in terms of reaction time.」
- ・「慢性疼痛に対する理学療法の有効性」
- ・アスリートクライマーへの学習強化の必要性について-The need for Learning enhancements to athletes climber.-」